

Information_10

夏が去り、過ごしやすい日も多くなりました。秋と言えば食欲の秋、ということで今回はわんちゃんの食べ物と味覚についてのお話です。



おすそわけしがちな人の食べ物・飲み物

人が食事をしている時に近くに来ると、可愛さに負けてあげてしまうことがありますよね。ここでは身近でおすそ分けしてしまいがちな食べ物・飲み物を、与える際に知っておいてほしい事と共にあげていきます。

食べ物	注意点・症状	与えるなら
牛乳	牛乳に含まれる「乳糖」と呼ばれる成分に耐性がなく、下痢を引き起こす場合があります。	与える牛乳の量の倍以上の水で薄めてからあげると、下痢をしにくくなります。
アイスクリーム	多くの原材料が使われていて犬によくない成分（人工甘味料や乳糖、添加物など）が入っていることがあります。脂肪分が多く、与えすぎは肥満の原因になります。また、お腹がゆるくなる事もあります。	原材料が確認できるシンプルなバニラアイスを少量だけ、量ってから与えてください。
ポテトチップス (スナック菓子 他)	高カロリーで肥満の原因になります。調味料の中に玉ねぎが含まれていることが多く、中毒症状を起こす恐れがあります。	玉ねぎや添加物など、犬の体に良くないものが入っていることが多いので、与えない方が無難です。
チョコレート	症状は嘔吐、けいれん、発熱、心不全などを起こし、最悪の場合死に至る危険があります。	デオブロミンと呼ばれる中毒性の成分が含まれているので与えないでください。



犬の味覚とは？

犬は人ほど多くの味は識別できませんが、味覚はしっかりあります。味覚を構成している甘味、苦味、酸味、塩辛さの4つにわけてご紹介します。

●甘味

犬は味覚の中で糖に反応する受容体が多くあるため、一般的に甘味を好みます。※味の好みには個体差があります。

●苦味

苦味を識別するアミノ酸は糖と同じ受容体です。そのため甘味同様苦味もよく識別することが出来ます。薬を嫌がったり、いつもと違うフードを食べない場合はこの味覚が強く反応しているためではないかと言われています。

●酸味

甘味、苦味の次に反応する受容体です。アミノ酸を摂取する時に同時に感じる味覚のため強い反応はありませんが、苦味と共に感じる人が多いようです。

●塩辛さ

他3つの味覚と比べると塩分を感じる受容体は少ないようです。犬は雑食ですが野生の時から肉食に近い食事をしてきました。そのため塩分のみを意識的にとることはなかったため、塩辛さはあまり感じないのではないかと考えられています。



食べたら危険！な食べ物

野菜・・・ネギ類（玉ねぎ、長ネギ、万能ねぎ、ニラなど全般）

ねぎには赤血球を壊す組織があり、少量食べただけでも貧血を起こすことがあります。ねぎは調理によく利用される野菜なので、見た目ですぐ見えなくともハンバーグ、シチュー、ピザ、パスタ他、おかずの具材やソースに含まれている事が多くあります。人用の加工食品は要注意です。

果物・・・ぶどう

症状は腎不全、下痢、中毒を引き起こします。中毒症状はマイコトキシンと呼ばれる毒によるものと言われていたり、吸収されずに残った農薬によるもの等と言われていたりしますが、実ははっきりとした原因はまだわかっていないようです。